

【政友みらい会派代表 大綱質疑（小暮）】

令和5年度予算(案)に対し、以下のような大綱質疑を行いました。

- ① 過去最大の予算524億7,000万円となり、市税の大幅アップが見込まれる理由
- ② 2050年までに二酸化炭素排出量ゼロに向ける考え方
- ③ 「佐野市健康長寿推進条例」及び「佐野市シニア地域デビュー条例」の今後の進め方
- ④ 国道50号沿線東部地域開発調査研究事業について
- ⑤ 出流原PA周辺開発事業費の減と理由
- ⑥ 防災・減災予算(河川の浚渫・拡幅工事等の8億1,225万円)の今後の予算対応について

大綱質疑に対する市長答弁要旨

- ① 経済活動の正常化が進み、給与のベースアップや一時金の増額が見られること、固定資産において、令和4年度中に新增設された家屋や大型太陽光発電設備が新たに稼働となったこと。
- ② 令和5年度につきましては、令和4年度の調査結果を踏まえ、PPA(電力販売契約)モデルを活用した太陽光発電設備の設置を行ってまいりたいと考えている。PPAモデル以外でも市有施設への太陽光発電設備の設置を考えており、今後も設置を推進していく。
- ③ 健康寿命及び平均寿命の延伸を目指して、周知啓発や後援会等の開催を進めて行く考えである。又、「佐野市シニア地域デビュー条例」についても、周知啓発や後援会等の開催を進めて行くと共に、デジタルを活用した効果的な健康づくりを促進するなど、より自分らしく輝けるように支援して行く。
- ④ 開発規模や内容については、令和5年度の調査結果を踏まえ、検討して行く。
- ⑤ 令和4年度に出流原スマートインターチェンジの整備が終了したことが大きな要因である。(今後は、良く相談しながら進める。)
- ⑥ 災害発生の予防または災害の拡大を防止することを目的に、国、県との連携を密にし、災害が発生する可能性が高い箇所等の改良計画を進めて行く。